

おもな学校感染症一覧表

平成24年4月改定

一覧表にあげた病気は学校感染症といわれ、たとえ軽症でも登校できません。学校感染症と診断された場合には学校に連絡をしてください。

●第1種学校感染症● 治癒するまで出席停止

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルク病、ラッサ熱、急性灰白髄症（ポリオ）、ジフテリア、南米出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、鳥インフルエンザ（H5N1型）、指定感染症および新感染症

●第2種学校感染症● 出席停止期間を参照、診断がついたら速やかに学校へ連絡

病名	出席停止期間	おもな症状	侵入経路	潜伏期間	感染可能期間	予防方法	好発季節
インフルエンザ (H5N1を除く)	発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで	急な発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉節痛、鼻水、咳	飛沫接触	1～5日	発病後3～4日	うがい、手洗い、マスク、予防接種	冬
百日咳	特有の咳が消失するまで 又は、5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	はじめは普通の風邪症状で始まり、次第に特有の咳(コンコンという連続した咳の後、息を吸う時にヒューヒューという笛音)が出る。	飛沫接触	7～10日	発病後28日	予防接種	夏
麻疹 (はしか)	解熱後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、結膜炎、頬の内側に白い斑点(コプリック斑)ができる。発熱後4日より皮膚に発疹。	飛沫接触	10～12日	発疹の出る5日前～後4日	予防接種	冬～春
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、全身状態が良好になるまで	37～38℃の発熱。片側～両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む、食欲不振、嚥下障害	飛沫接触	14～18日	発病7日前から発病後9日	患者の隔離、予防接種	冬～春
風疹 (三日はしか)	発疹が消失するまで	発熱、赤い発疹、耳の後ろ・首・脇の下などが腫れる、咳	飛沫接触	14～21日	発疹の出る7日前から出た後の7日間	患者の隔離、予防接種	春～夏
水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹が痂痂化するまで	水疱のある発疹が体中に次々できる。かさぶたになり、先に出たものから治っていく	飛沫接触	10～21日	発疹の出る1日前から出た後の7日間	患者の隔離、予防接種	冬～春
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消失した後、2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜の充血、食欲不振、流涙等	気道結膜接触	5～7日	発病後2～3週	水泳禁止、洗眼	夏～秋
結核	学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	初期は自覚症状なし。X線検査で発見されることが多い。疲労感、寝汗、発熱、体重減少、咳、痰	飛沫	1～2か月	(保菌していても発症しないことが多い)	BCG接種、X線による早期発見。栄養と休養。	なし
髄膜炎菌性髄膜炎	学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	頭痛、けいれん、発熱、意識障害、髄膜刺激症状	飛沫	3～4日	(保菌していても発症しないことが多い)	予防接種	

●第3種学校感染症●

医師に感染の恐れがあるので登校しないようにと言われた場合は、出席停止となります。
ただし、病気が治癒していなくても診断によっては出席停止とならない場合もあるので、医師の指示に従ってください。

[illegible]